

はじめに

2020年4月 37回 竹本 修文

2019年9月に久しぶりにイギリスを旅行した。成田空港開港の前年の1977年にヨーロッパ各地を訪問して以来イギリスには3年間のロンドン駐在を入れて25回目の訪問であった。回数だけならフランスの35回に次いで2番目となるが、小中学生の子供達と過ごした国であり、会いたい知人やもう一度見ておきたい所が沢山ある。またイギリスが欧州連合 **EU から離脱 (BREXIT)** する事になり、自分の目で確かめておきたい事も沢山あったので、妻と二人で3週間旅行した。

最近までの20年間は個人的旅行で十数回行った。いつもレンタカーを妻と交代で運転したが、70歳でイギリスの免許も切れ、後期高齢者になって国内免許も返納したので、初めて鉄道・地下鉄・バス・タクシー・徒歩で通した。

8年前のロンドン・オリンピック&パラリンピック前にバリアフリーが進んだと言うが、155年前に世界で初めて地下鉄を開通させて以来、次々と既存のビルの下を深く掘って作った地下鉄が多くて、乗換駅などでバリアフリー化出来ない所が多くあり、非常に疲れた。地下鉄ではベビーカー (= 和製英語、英: push-chair、米: stroller) と一緒に乗れない。帰国後の夫婦の感想は、「イギリス旅行はこれで最後にしよう」となり、投稿の表題にした。

今回から4回投稿を考えており、各副題は以下の①～④です。

① シリーズの第1回目は、「**ヨーロッパとイギリスの最新事情**」の副題で、戦後のヨーロッパの歴史を概説した上で、ヨーロッパの中のイギリスとイギリス国内の事情を説明し、今回気づいた事や、今後の予測や課題を報告する。

② 次回は「**リバプールと奴隷産業**」という副題で、リバプール奴隷博物館を訪問し、西アフリカ・アメリカ・ヨーロッパを結んだ三角貿易と奴隷貿易産業の首都が**リバプール**だった事をリバプール大学の出版物などで調べたので紹介する。古代・中世の歴史に全く登場しない街**リバプール**だったが、ダークサイドの歴史であり、国としても表にはしなくなかった事がよくわかった。

③ 30回生の中城正堯氏、西内一氏のご推薦で昨年度から公益財団法人日本城郭協会の評議員に就任しているので、2000年前のローマ軍の城郭都市ロンディニウム (ロンドンのラテン語名) の古代地図を片手にそのカケラをさがして歩いてきたので紹介する。仮の副題は「**古代ローマ帝国の城郭都市ロンドン**」。

④ これも城郭です。1066年に現在のフランスのノルマンディーに定住していた北欧ヴァイキング出身のノルマン人がイギリス南東部のヘイスティングズから上陸し、建設したイギリス中世の城郭を見てきた。仮の副題は「**ノルマン様式城郭のはじまり**」です。

 ヨーロッパとイギリスの最新事情

1. イギリスという国

① ヨーロッパの中のイギリス

日本もアジアの一部だが日本とアジアを分けて話すと同様に、同じ島国のイギリスではヨーロッパと言う時にはイギリスを含まない事が多い。

欧州連合EUは1952年に発足したECSCから始まり、イギリスは1973年にEC時代に加盟し、その後EUになり、今年1月に離脱した。

地図は最新のEUの地図であり、イギリスは消えている。



出典: "駐日欧州連合代表部発行『EU MAG』

<http://eumag.jp>

② 国名：グレートブリテン及び北アイルランド連合王国

United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland
「連合王国」は直訳で、通称「イギリス」と「英国」があるが、公用語では英国、口頭ではイギリスも使われる。国名なのに呼び方がいくつもあって外人は混乱すると言うが、日本の国連に登録した国名は、漢字の「日本国」と英語で **Nippon** と **Nihon** の3種類だが、国連や国際会議では日本人を含んで誰もこの3種類を使わず、**Japan** と呼んでいる。

③ 政府：女王（英国の伝統で「君主は君臨すれど 統治せず」）、首相ボリス・ジョンソン、貴族院議長、庶民院議長



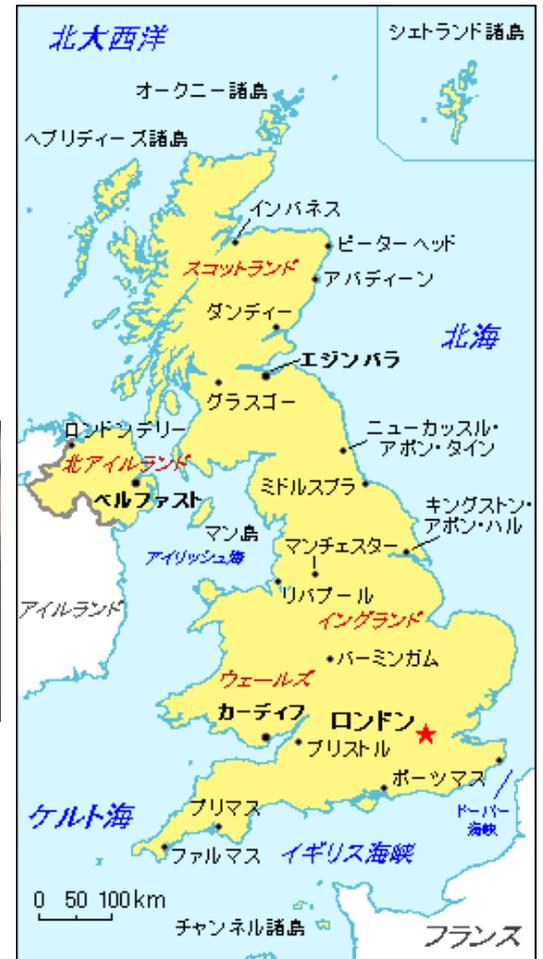
エリザベス女王

出典：UK Press Getty



ジョンソン首相とフィアンセのキャリー

出典：BBC NEWS



地図出典：「旅行の友、ZenTech」

ウエストミンスター宮殿で国会議事堂として使用されている。手前はテムズ川、左の塔はヴィクトリア・タワー、右はエリザベス・タワー。Big Ben は時計塔の中の大きな時計の愛称で、塔の建設指揮官の名前ベンジャミンから付けられた。

④ **イギリスの地図の説明**：国名 United Kingdom of **Great Britain** and **Northern Ireland** の Great Britain は右側の大きな島の名前でブリテン島、左の小さいほうの島がアイルランド島。古代ローマは BC1 世紀にガリア（フランス）を、100 年後の AD1 世紀にブリタニア（イギリス）を征服した。ガリアにはブリタニアから移住してきたブリトン人が住むブルターニュ半島があり、ブリタニアの事をフランス語でブルターニュと言うので区別するためにイギリスをグラン・ブルターニュ（Grand Bretagne）と呼んだ。イギリス人はこれを Great Britain と英訳した。ブリテン島には、イングランド、スコットランド、ウェールズと王国・公国があったが、イングランドは 14 世紀にウェールズを征服し、1603 年にはスコットランド王ジェームズ 6 世がイングランド王を兼務して**ジェームズ 1 世**となり、1707 年にはスコットランドを併合した。

2. イギリスを取り巻くヨーロッパの現状と課題

① 国連 UN：



二回の世界大戦を経て第三次大戦をしてはならないと言う決意から国連を作った。しかし、**軍隊を持たない国連**は武力紛争を未然に防ぐ事が出来ない。**国連軍**を組織したのは第二次大戦直後の**朝鮮戦争**だけであるが、中身は常備軍ではなく**多国籍軍**である。戦争は現在も休戦中で、国連軍後方司令部は米軍が所有する横田基地の中にある。国連の各種機関はスイスのジュネーブ、オーストリアのウィーン、オランダのハーグなどにある。しかし、ヨーロッパで武力紛争が起きても、正直なところ国連には解決する能力があると思えない。

② 北大西洋条約機構 NATO：イギリスの EU 離脱で NATO の将来が揺らいでいる

今年は**北マケドニア**が加盟する。

NATO は東西冷戦の中でソ連を中心とする共産圏に対抗するための西側陣営の多国間軍事同盟であり、「**アメリカを引き込み、ロシアを締め出し、ドイツを抑え込む**」目的で創設された。

北マケドニアはバルカン半島のユーゴスラビアが東欧革命の流れの中で分裂してできた国の一つで国名をマケドニアとしてきた。しかし、この国名は紀元前 4 世紀のアレキサンダー大王の出身地マケドニア王国に由来するものであり、国境を接するギリシアにもマケドニア地方があり長年ギリシアが反対してきた。

EU メンバーになりたい**マケドニア**は NATO と EU のメンバーである**ギリシアの反対があればメンバーになれない**ので国名を**北マケドニア**と改名する事で合意が成立した。まず NATO に加盟してヨーロッパに軍事で貢献して次に EU に加盟してヨーロッパの一員になるのが目標である。

イスラム国トルコは露土戦争（ロシア・トルコ戦争）を 13 回程戦った実績があり、西側は東西冷戦時代に対ソ連対応の為に味方に取り込みたいし、**トルコはヨーロッパの仲間入りをしたくて NATO に加盟した**。しかし何年経ってもトルコは EU には加盟できず、現在ではアメリカ製ではなくロシア製武器を買ったり、対ロシアの対応では西側との協調も乱れており NATO は機能していないと思う。フランスのマクロン大統領も同様の事を言っている。

ユーゴスラビアが解体して国の数が増えた、バルカン半島
マケドニアが北マケドニアと改名して NATO 加盟へ



地図出典：2018年2月25日 Livedoor Blog

③ 欧州連合 EU :



二回の世界大戦がいずれもヨーロッパから始まった反省から、ヨーロッパは一つになろうと統合の道を模索し始め、東西冷戦時代に経済活動に限定した統合から着手して、徐々に政治的統合を目指して現在の**欧州連合 EU** が誕生したが、イギリスの離脱独立 **BREXIT** でイギリス抜きで欧州連合 EU の将来も見えないし、英語を共通語としている NATO は分裂して英米加の英語国は別になり、旧英連邦の国々と軍事同盟を進めるように聞こえてくる。英語国のいない

EU27 国は英語を共通語として組織化してきた NATO 軍からイギリスが抜けたら、**EU** をその他の国々からの侵略から護る新しい**欧州連合軍**を創設する事になるのだろうか？

考察と課題：40 年余りイギリスを中心にヨーロッパを見てきて、最後になると思われる昨年のイギリス旅行を振り返る時、二回の世界大戦の反省から、ヨーロッパから第三次世界大戦を起こさないシステムを構築してきたが、**国連・NATO・EU** の現状には疑問があると言わざるをえない。これらの**システムそのものが劣化**しているように思える。

初めて訪欧した 1977 年当時は「世界は東西二つに分かれており、其々に多くの国がある事を認めて、国境を越えた国際的な活動をせよ」と言われてきた。そして 1989 年のベルリンの壁崩壊から東欧革命そしてソ連崩壊と続き、**国際化時代**が終わり、共産主義も国境も無い地球規模で**球状の (global)** の世界になると言われ**グローバル時代**と名付けられた。しかし、**ソビエト連邦**は崩壊して 15 の国々に分かれても、その一つの国**ロシア連邦共和国**は「国境内に 21 の共和国と 46 の自治州などがあり、182 民族がいて、100 の言語が話されている」と言う腹雑な連邦国家として東西の壁に代わる国境は存続して欧米と対立を続け、**中国**などの共産主義国も消滅するどころか強大化している。現在のロシアと中国の状態は想定外であり、地球規模で一つに纏まると言う期待は外れ、むしろ予想もしなかった方向に分裂しつつある。**グローバル時代は夢で終わったのだろうか？**

新型コロナ・ウイルスによる疫病**コウヴィス-19 (COVID-19)** の展開次第で、ヨーロッパ・アメリカ・**中国**がどうなるか？アメリカの中間選挙の展開次第で NATO を含む軍事同盟がどうなるか？大きく変わるだろう。

3. イギリスの事情

① イギリス王室



チャールズ皇太子
出典 ウキペディア

第二次大戦後には世界各地で植民地が独立し王制が廃止された。エジプト革命で王制が廃止された時に、「将来は **King** と **Queen** はイギリス王室とトランプのカードだけに残る」と言われた事は有名な話。エリザベス二世はイギリスの他にもカナダ、オーストラリア、ニュージーランド、その他旧英連邦の合計 16 か国の**君主 monarch** を兼ねているが、**チャールズ皇太子**が王位を継承し**チャールズ二世**になったらオーストラリアなどいくつかの国は、君主制を廃して共和制に移行するだろうと噂されている。フランスの**シャルル**、ドイツの**カール**、スペインの**カルロス**とそれぞれの国に何人もいるが、これらの名前は英語では**チャールズ**となる。イギリスの歴代の王の中ではチャールズはスチュアート朝のチャールズだけだが、ピューリタン革命で1649年に処刑された。フランス革命時の**国王ルイ 16 世**の処刑 1793 年より約 150 年前の事だった。現在のチャールズ皇太子はエリザベス二世の後継者でイギリス王**チャールズ二世**となる。次男のハリー夫妻は既に王室を離れた。

エリザベス二世は 60 歳で退任する噂があった、当時はイギリス国民の国の定年は男 65 歳、女 60 歳（イギリスには終身雇用も会社の定年もない）だったからだが、子供達のスキャンダルや離婚などで王位を譲れる雰囲気ではなくなり 93 歳の現在まで続いている。エリザベス二世の人気は高く、既に説明した通り、国会議事堂の二つの塔のうち北側の**時計塔 Clock Tower** が 2012 年に女王在位 60 年を記念して**エリザベス・タワー**と命名された。また、ロンドンを東西に横断する新しい高速地下鉄は現在 Cross Line という仮称で部分開通しているが、2021 年からは **Elizabeth Line** と命名されて全線開通の予定である。

イギリスが王制を廃して共和国になる事があっても King と Queen はトランプ・カードだけでなく**日本に残る**と思う。日本は戦後の新憲法になっても天皇の英語名を明治の大日本帝国憲法時代の **Emperor** のままにしているが、英語の国々では Emperor の語源は、ローマ帝国の向陽語・**ラテン語**のインペラートル (Imperator) でローマ帝国の皇帝に使われたものであり専制君主的意味を持つ。新憲法の上皇は「**国民の象徴**」であり英語の Emperor ではない、現在のヨーロッパの King と Queen と同じなのでその方が誤解されずに済む、とはイギリス人の友人のコメントです。天皇の後継者候補は 3 人だが、エリザベス二世の後継候補者は世界中にいて系図の上では 2000 人以上と聞く、国籍・性別・などを問わないからだ。妻を 4 人もち、次々替えているが、国王は男子限定の**サウジアラビア**より多くて世界一らしい。

② スコットランドの現状と将来

EU がどうなるかを心配する前に、イギリス国内にも**スコットランド**と**北アイルランド**の UK 離脱が噂されている。



スコットランド国旗

AD1 世紀にローマ帝国がブリタニア南部の現・イングランドを征服し、基地や道路を作り帝国の領土として整備した。しかし、イングランドの北側にいる**ケルト系**原住民の**ピクト人**や**スコット人**から度々襲撃された為、ローマ皇帝**ハドリアヌス**がイングランドの北端に**ハドリアヌスの城壁**を建設した。この城壁に護られてローマ軍はスコットランドの攻撃を受けなかったが、スコットランドも南側から襲撃されずに現在に至っている。

ローマ軍は 4 世紀後半から、帝国のヨーロッパの各地がアジアから来たフン族の侵略に押されたゲルマン人、（高校ではゲルマン民族と教わったがローマ人がゲルマニアと称した地域にはゲルマン民族はいなくて 100 程もの民族がいたので総称としてゲルマン人と言う）、に襲撃され、本国からの指示でブリタニアから引き揚げた。その後イギリスは空白になったが、ゲルマン人の中のアングル人、サクソン人、デーン人などが侵入し数百年間混乱が続いた。イングランドは 1066 年に元北方のヴァイキングでフランスに 2 ~ 3 百年定住してフランス語を話すノルマン人のノルマンディー公国から征服されて新しいノルマン朝イングランドが誕生した。現在に続くイギリス王室の始まりで初代の国王は**ウィリアム征服王**と言う。フランス国王に臣従するノルマンディー公がイングランド王になり、170 人の地方領主もノルマン人に変えたので、王侯貴族はフランス語を話すようになった。その後ノルマン朝エドワード 1 世はウェールズを併合し、スコットランドに侵略を試みるが現在まで存続している。紀元前からローマ軍にもゲルマン人にもノルマン人にも征服されず存続している。

イングランドのチューダー朝**エリザベス女王**が 1603 年に独身のままこの世を去ると、後継者にスコットランド王**ジェームズ 6 世**が選ばれてイングランド王**ジェームズ 1 世**となった、**スチュアート朝**の誕生で二国を統治する同君連合の始まりだった。

イングランドでは議会を取り仕切るのは王だったが、1714 年、後継者が途絶えてドイツのハノーヴァー侯を**ハノーヴァー朝初代の王ジョージ 1 世**として迎えた。しかし彼は英語を話せなかったので、リーダー格の大臣 Minister が取り仕切る事になり、**Prime Minister**と言う役職が始まった。ハノーヴァー朝と次の王朝はいずれもドイツ語だったが、ドイツと戦争しているのにドイツ語の王朝は良くない、という事で**ウインザー朝**と改名した。現在のスコットランド議会を取り仕切る首相は **First Minister**と言う。BREXIT をきっかけにして再度イギリスから分離独立の賛否を問う国民投票をする可能性が高い。

③ アイルランドの現状と将来



アイルランドのエンブレム

ケルト系ゲール人の国でゲール語を話すカトリックの国、アメリカで人気の**ハロウイン**の祭りはゲール人がアイルランドで始めたものでカボチャは無いが大きな蕪（かぶ）を使っている。イギリスの圧政に苦しみ多くのアイルランド人がアメリカに移住し、2000 年以上昔からの祭りをアメリカに伝えたもので、蕪ではなくて**カボチャ**を使うようになった。イギリスとアイルランドの関係は日本と朝鮮半島の関係に似ている。日本は朝鮮半島を 36 年間植民地化したが、イギリスは約 400 年間植民地にして英語を強要したのでゲール語が消滅しかける程だった。

約 100 年前に独立する時に北部をイギリスが領有したままで北アイルランドとして現在に至っている。しかし、アイルランド国は分離してもアイルランド・ラグビー協会は分離せずに継続しており、昨年の**ワールドカップ 2019**にはアイルランド国民とイギリス国民からなるアイルランド統一 One Team で優勝候補との前評判で参加したが、**日本の One Team に惨敗した**（実況中継していた NHK の豊原アナウンサーはノーサイドの直後に「**もう奇跡とは言わせない**」と叫んだ）。ラグビー発祥の国はイングランドだがワールドカップなど国際的な事務を行う **World Rugby** という組織の本部はアイルランドの首都ダブリンにある。イングランドが周辺国の意見を聞かなかつたから外部に組織を作られて、後から「仲間に入れてくれ」と頼んだ。サッカーもイングランド生まれだが、フランスなどの加盟を断ったので、本部の **FIFA** はチューリッヒにある。BREXIT 後は、北アイルランドはイギリスから離脱してアイルランド共和国と統合して One Nation になると思われる。

イギリスが離脱した **BREXIT** 後の EU27 か国にはイギリスが占領した歴史の名残りで**マルタ共和国**と**アイルランド共和国**が母国語と英語を使用しており、EU 市場中心の企業が本部をロンドンからアイルランドの首都ダブリンに移している。ダブリンの土地・家賃が高騰してアイルランド人が締め出される程である。私の駐在時代の秘書はアイルランド人で日本人にとって朝鮮人みたいな関係だったが今後はハッピーになるように思う。イギリスは二重国籍を許していて、多くのイギリス人がアイルランド永住権を取るべく申請しているが、アイルランドが厳しく制限しており中々永住 VISA が取れないらしい。元秘書は元々アイルランド人だから問題ないし、主人は私の部下だった日本人で問題ないが、日本で生まれた 30 歳の息子は日本・米国・イギリスの後ポルトガルに住んでおり、アイルランドの永住 VISA が取れないそうだ。日本の国籍を取るとイギリス国籍を取れなかったの、取っていない。日本も二重国籍 OK にすべきです。

④ イギリスの東アジアとの関係

ロンドン・オリンピック 2012 の年にイギリス旅行した時から変わったと気づいたこと……

韓国：日本が Made in Japan を強調して評価を得てきた方法ではなくて、Made in South Korea を表に出さずに**韓国企業は日本企業と間違えてくれる事を期待してきた**。イギリス人には韓国人と日本人の区別は出来ないし、違法ではないが、今回消えたのは、日本の国際空港に到着して入国手続きに向かう所に何年も、「Welcome to Japan ,Samsung」の大きな看板。数年前に親しい韓国人に、到着した外国人が見ると、Samsung は SONY のような日本企業と思うよね〜？と聞いたら、「**その効果を狙っている**」との事だった。また、パリやロンドンで JAL や ANA の搭乗カウンターへ行くと Samsung や LG などの看板があったが、今回は無くなっていた。実力がついたからなのか知りません。

寿司：回転ずしをヨーロッパに持ち込んだのは韓国人で日本製は回転機械だけで、その他は韓国人がイギリス人を使って営業していた。日本人と言えば、語学研修で来ている学生を店に立たせて簡単な作業をさせていた。今度発見したのは、

「わさび」という寿司店チェーンがあちこちにあり、回転はせずに**弁当**にに入れて味噌汁と一緒に売り、店内でも**持ち帰り**（イギリスでは take away, アメリカでは take out）でも OK。味は以前の回転ずしが「日本には無いイギリス人好みの料理で寿司ではなかった」が、和食がヨーロッパに広がっている事も原因だろうが、結構うまい。寿司ネタは生鮭が中心で他のネタは少ないが、すし飯も良いし、日本の味である。**経営者はやはり韓国人**でわさびはイギリス人農家を指導して国産化している。日本人の寿司屋は 40 年前の駐在時代からあるが、東京並みの本物の寿司で銀座の次郎並みに高い。

中国：10 年ほど前に中国資本がロンドンの中華街を買い始めたが、外観を変えることができず、再開発できない事が分かって撤退し昔のまま。ロンドンは **1666 年の大火災**で壊滅状態になった反省から、建物の屋根と一階部分を石など不燃材料にする法律ができて、当時の建築物が壊れにくくて残っている。これらは環境庁から保護されており内部にエレベータを付けたり、エアコンを設置するのは OK だが、外観を変えられない。ロンドンの中心部に近代的な高層ビルを見たら、それは第二次大戦でドイツが空爆した所です。

今回は初めてリバプールとマンチェスターの中華街を歩いた。**イギリス最初の中華街**である。町の門とか朱塗りの建物とか漢字の看板はあり、外見は China Town だが中身はイギリス人のパブやサンドイッチなどの軽食店などに改装されていて、中華料理店を探すのに苦労した。リバプールとマンチェスターの中国人は客家 Hakka で、広東省を中心に広西、福建、江西の諸省に住み、中国内でも移住民として本地人から区別されてきた住民が中心である。ハッカは広東方言で、クーチヤすなわち客人の意味で、華北から南方へ移住した漢民族の一派ともいわれ、広東語系のハッカ(客家)方言を話す。第二次大戦後の中国の国共内戦で定住地を持っていなかった客家は香港から、台湾・東南アジア・更にリバプールやマンチェスターに移住した。イギリスは戦後復興の為に労働者として受け入れた。China Town はあるが、中国人はあまり見なかった。日本のラーメン店で働いていたアジア人は中国人ばかりだった。

⑤ 英語は強みだが弱みにもなる

赴任した 1981 年は、故**ダイアナ妃**がチャールズ皇太子と結婚した年で、**エリザベス女王・サッチャー首相・ロンドン**(行政の Greater London では無く、歴史的遺産 City of London)市長(Lord mayor)の三人全員が女性で、**ダイアナ**人気で華やいでいた。初めのうちは「男勝りの**サッチャー**の印象が強く、イギリスで上に立つ女性が多いのは女性が偉いのだ」と思った事もあったが、その内に、「これを許している男が偉いのだ」と気が付いた。隣の**フランス**ではフランス語第一主義のデスカール・デスタン大統領からミッテラン大統領に代わった年で、犬猿の仲の英仏関係が少しは良くなり、**フランスの言葉は、第一言語はフランス語**で第二言語はドイツ語だったが、**英語**に変わった。



故 ダイアナ妃

フランスでも英語が義務教育科目になり、パリで英語を話すが無視された時代は終わり、若者を中心に積極的に相手をしてくれる時代になり、大学生は英語が出来ないと就職できない時代になった。その後、世界のグローバル化とヨーロッパ統合の動きで「**英語は世界共通語**」になり、英語以外の言葉が苦手なイギリス人でもグローバルな活動が目立つようになっていった。中世までヨーロッパの片田舎だったイギリスは**奴隷貿易**と**植民地経営**を積極的に進め、砂糖と綿花で稼いだ金で産業革命を進め国力を増強して**英語**の地位が高まった。そのお蔭で奴隷も植民地もない現在でもイギリスにとって英語は強みである。



故・サッチャー首相

弱みにも英語が登場する。ポルトガル・スペインに大航海時代の発展の遅れをとったが、16 世紀に政府公認の**私掠船**（海賊船）がスペインなどの船を襲って稼ぎ、神風のような嵐のお蔭もあってスペインの**無敵艦隊 armada** を破ってスペイン・ポルトガルからカリブ海諸島などの彼らの植民地を奪って奴隷を送り込み、英語圏を増やしていった。

19世紀の奴隷解放以降になると彼らの一部はアフリカに帰り、更に第二次大戦後には戦災復興の労働力として英語圏のジャマイカなどからロンドンに移住者を受け入れて、彼らはロンドンのブリクストンなどにコミュニティーを作った。其処までは、想定内だったが、過去の植民地ではない国々でも英語を理解する国々が増えて多くの経済難民が押し寄せている。現在のロンドン市民の55%は外国人だという。ポーランドをはじめEU内の東欧諸国からも大勢移住してきたが昨年国民投票でBREXITが決まると帰国しはじめたようだ。現在のGreater Londonの市長はパキスタン系イスラム教徒だし、2014年にイギリスで誕生した男子の名前の第1位はムハンマド（「マホメット」は訛り）だった。

4. イギリスに個人旅行をする方々への助言

- ① ガイドブックは「地球の歩き方」が良い、ロンドンとイギリスの2冊あって便利だが重い、
- ② 携帯・スマホは日本の契約のものは、WiFiがある所なら良いが、無ければ「機内モード」にしておかないと、勝手にイギリスの電話会社 **BT** に繋がり、後から日本の携帯会社経由で高い料金を請求される。外国で何も設定せずに日本のインターネットを使い続けて数十万円請求された人もいた。
- ③ 私は **VisitBritain**(英国政府観光庁オンラインショップ <https://www.visitbritain.com/jp/ja>) にアクセスして、携帯用 **WiFi** のレンタル手続きをしてヒースロー空港で受け取る。鉄道切符 **Britrail Pass** の購入もできるが、これは **HIS** など旅行代理店や「地球の歩き方」でも購入できる、イギリスでは買えない。
- ④ 地下鉄やバスのスイカみたいな **Oyster Card** を現地で購入をお勧め。買い方は「地球の歩き方」に出ている。
- ⑤ 長期滞在ホテル **Chelsea Cloister** のお勧め； チェルシーの高級住宅地で治安が良く、ヴィクトリア・アルバート美術館近く。1981年に赴任して家族を呼び寄せるまでの2か月間過ごしたホテルで、9階建て900室あり、スーパーが隣にあり便利。風呂・テレビ・台所・冷蔵庫・IH・電子レンジ・トースター・食器・洗濯乾燥機・アイロン三ツ星ホテルの半値以下と安い！ WiFiは別料金

予約は下にURLを引用した [booking.com](https://www.booking.com) からできる。下の写真の出典は下のURL。

<https://www.booking.com/hotel/gb/new-chelsea-cloisters.ja.html>



以上